



遺跡を掘る!

第5号 2021年2月5日

(公財) 鳥取県教育文化財団調査室では、一般国道313号の道路改良工事用地内にかかる石塚廃寺東遺跡と大鴨遺跡の発掘調査を令和2年6月から行ってきました。この度、皆さまのご理解とご協力のもと、発掘調査を無事に終えることができましたので、その成果をご紹介します。

石塚廃寺東遺跡 (いしづかはいじひがしいせき)

遺跡は倉吉市石塚から福山にかけて広がり(図①)、「天神野台地」と呼ばれる丘陵の裾部に位置しています。西隣には、奈良時代に建てられたと推定される県史跡の石塚廃寺跡があります(写真①)。

今年度は道路の橋脚になるP1区からP8区の調査を行い(図②)、石塚廃寺で使われていたと考えられる瓦を多量に見つけることができました(写真②)。現在は整理途中ですが、石塚廃寺の実態を解明するうえで、貴重な手がかりが得られました。

また、石塚廃寺東遺跡・大鴨遺跡から、古代(奈良時代)から中世(鎌倉時代)にかけて存在していた川の跡が見つかり、寺院周辺の景観の一端が明らかとなりました。



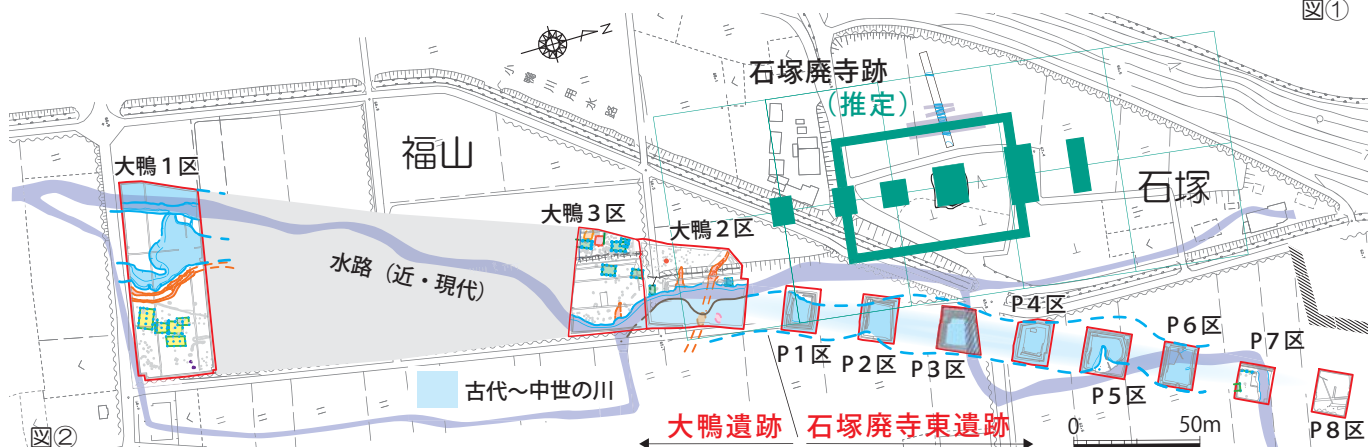
写真①



図①



写真②



図②

大鴨遺跡（おおがもいせき）～寺が関わる水辺の祭祀～



写真③



写真⑦



写真④



写真⑥



※ 土師器（はじき）の底に「大」または「奈」と墨で書かれています。

写真⑤



写真⑧

※ 左が頭、右の尾は欠けています。鞍を付けた馬を表現しています。



写真⑨

大鴨遺跡は石塚廃寺東遺跡の南側に位置します（図②）。調査は南端を1区、北端を2区、2区の南隣を3区と分けて行い、室町時代の火葬墓、平安時代から鎌倉時代の掘立柱建物跡、奈良時代の道路遺構や鍛冶遺構（写真④）などを調査しました。遺物は墨書土器（写真⑤）をはじめ、古代（奈良時代）の土器や石塚廃寺に使われていた瓦、木製品などの遺物が数多く出土しました。

大鴨遺跡2区の川跡からは、古代の水辺の祭祀（さいし）場（写真⑥）とそこに行くための道路遺構（写真⑦）が見つかりました。祭祀を行う空間を俗世と分けるために用いられたと考えられる斎串（いぐし）や馬形（馬の形を模した祭祀用の木製品）、ささらこという楽器など（写真⑧・⑨）がまとまって見つかり、古代の地方寺院が「神マツリ」に関わっていたことを具体的に示す貴重な調査例となりました。